

学部長の改選

経済学部長、経営学部長、文学部長の任期満了に伴い、各学部教授会で改選が行われた結果、経済学部長には高橋祐吉教授が再任され、経営学部長には魚田勝臣教授、文学部長には荒木敏夫教授が新たに選任された。新任にあたって、両学部長に抱負を聞いた。9月1日付で任期は2年間。

経営学部長に魚田勝臣教授

「専門性を持ったスペシャリストと、学際性を備え協働をリード出来るジェネラリストを育てることを目指します」

今年、学部開設40周年の経営学部。21世紀のビジネスリーダー育成へ「目標とする教育は」の問いに、明快に答えてくれた。

従来からの教育に加え「少数教育を徹底させたいですね。プレゼミ、情報リテラシ、教養演習・ゼミ、専門ゼミ。大学での持ち味であるゼミナール教育をほぼ4年間、一貫して行っていきたい。学生個々の顔の見える授業により、創造性やコミュニケーション能力をはぐくみたいと考えます」

理論に加えての実学として、他学部在先駆け企業研修(インターンシップ)、企業による提供講座などを実施。ビジネスの最前線に学ぶことで、社会観、職業観の涵養に実績を上げており、今後も推進していきたい考えた。各業界に精通した教員スタッフの英知を集め、学部に新風を吹き込みたいと意欲を燃やす。

「学生たちには『自立せよ』と言いたい。積極的に行動することで研鑽を積み、生涯伸び続ける人間であってほしい」

生涯研鑽は企業勤務から50歳で大学教授に転じた自身の指針でもある。石川県生まれの大阪府育ち。趣味は「上方落語」から「吉本」までお笑い鑑賞、スポーツ全般。特にスキー歴は長い。妻と一男一女、3人の孫がいる。

文学部長に荒木敏夫教授

「01年度から専攻制を導入、新しいカリキュラムをスタートさせ、外部に各学科の姿、全容が見えるようになりました。それで志願者も増え、意欲的な学生が集まっています。このシステムを進める中で、さらに学生が学びやすい学習環境をどう構築していくかがこれからの課題です」

文学部は全国の大学でも上位にランクされ、高く評価されている「これは、これまでの改革の成果と考えたいが、それに安住しない不断の学部改革への意欲と実践が必要」で、秋には「将来構想委員会」を立ち上げ、06年の文学部創設40周年までに近未来の設計を完成したいという。

「1年次からのゼミで少数教育を徹底、より専門分野を掘り下げられるよう展開していきます。また文学部改革の目玉の一つである『テーマ学習』の学生を今秋募集し、来年度からスタートします。これは専門化型の学習と違い、学生の好むテーマを学科、専攻、コースを超えて横断的に学ぶものです」

もう一つの大きな課題は就職問題。「学生諸君には、希望実現のためにも現実をリアルに分析した上で、しっかりとした社会人観、職業観を持ってもらいたい。そのためのバックアップを強めていきたいと思えます」。

東京都港区の生まれ。専攻は日本古代史(6世紀～11世紀)で、毎年学生と飛鳥、奈良などの遺跡を見て歩く。大の阪神ファン。妻と一男二女。

[9月15日/ニュース専修2面]

